

## 会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（7月定例会）会議録
開催日時	平成28年7月11（月）14時00分から16時15分まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：内田議長、木下副議長、川崎委員、小林委員、須永委員、沼本委員、服部委員、原委員、森田委員、矢野(真)委員、事務局：岡本課長、桂主事、奥住主事
議題	(1) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会（意見照会）について (2) 社会教育関係団体に対する補助金について (3) 都市社連協第4ブロック研修会について (4) 今後の活動について (5) その他
配布資料	資料1 東京都市町村社会教育委員連絡協議会（意見照会） 資料2 平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会についての検討 資料3 西東京市社会教育委員の会議活動予定(平成28年4月～平成29年6月)  ○一般社団法人全国社会教育委員連合 平成28年度第1回総会議事録 ○西東京レスキューバード等記事 ○西東京市図書館だより 第62号 ○関東甲信越静社会教育委員研究大会の参加申込 ○社教情報申込書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

### 会議内容

※事務局より6月の定例会議の会議録の字句の調整について言及。

●平成28年6月の定例会議の会議録について承認する。

●前議長 須永委員挨拶

●新副議長 木下委員挨拶

●議長より会議運営について確認

(1) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会（意見照会）について

●事務局より、資料1「東京都市町村社会教育委員連絡協議会(意見照会)」及び西東京市回答案について説明。

- 議 長：西東京市として会長市である八王子市案に賛同するという事によろしいか。
- 委 員：（異議なし）
- 議 長：案のとおり東京都市町村社会教育委員連絡協議会に回答する。

## （２）社会教育関係団体に対する補助金について

- 事務局より、補助金申請の経緯について説明。
  - ・ 6月15日号の市報・ホームページで告知。
  - ・ 6月20日(月)から7月8日(金)まで募集。
  - ・ 1団体（西東京レスキューバード）から応募があり、事務局の要件審査の後、次回の定例会で審議を予定。
  - ・ 事務局で審査中。補助金を出すにふさわしい団体と判断されれば、次回の定例会で審議する。

### ＜主な質疑応答・意見＞

- 委 員：避難所運営協議会と西東京レスキューバードとの違いは何か。
- 事務局：レスキューバードは地域のボランティア団体である。避難所運営協議会は市が設置している協議会で、性格が異なる。
- 委 員：HUGは市が中心となって学校などで行っているが、区別はできているのか。
- 事務局：HUGは西東京市市民協働推進センター「ゆめこらぼ」が主催している。地域活動団体のレスキューバードが実施に当たっての支援をし、防災教育の充実を図っている。
- 議 長：この団体に地域事業で協力を依頼したことがある。一般のボランティア団体で、自主的に学習をしており、今後NPOの立ち上げも考えているようだ。
- 委 員：私の認識では、大災害が起きた際に、市がボランティアセンターを立ち上げるのを手伝えることを目的とした団体である。平時はその準備や防災関係一般の勉強をしながら活動している。
- 委 員：これは各自治体などが設置した団体ではないのか。
- 議 長：自治体の設置した団体ではない。社会福祉協議会の講座に参加した方が自主的に立ち上げた団体である。
- 委 員：市民から見ると、民間で勝手に活動していると思われがちだが、社会福祉協議会や危機管理室と連携し、活動していこうとしている団体と思われる。
- 議 長：事務局の要件審査後、次の定例会で検討する。

## （３）都市社連協第４ブロック研修会について

- 事務局より、資料２「平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第４ブロック研修会についての検討」に基づいて説明。

### ＜主な質疑応答・意見＞

- 議 長：資料２に記載のあるような意見が出た。今までの研修会を考えると、事例発表と意見交換をするだけではなく、地元等の紹介も含まれていた。その時間も考えて、テーマに沿った講演をしてもらい、その後に事例発表、質疑応答という形が良いと思う。ワークショップをするための講師の準備等を考えると、全体で進めるのも良いと思った。本日は研修会のテーマと内容について決め、時程

についても話し合いたい。何か意見等はあるか。

○委員：1つ確認したい。1枚目の事例発表例では、西東京市の事例を発表することになっているが、2枚目の案1、2にはともにワークショップが入っている。ワークショップそのものは固定的には考えないという認識でよろしいか。

○議長：前回ではそうであった。

○委員：実施方法についてに戻るが、1つの会場内でテーマに沿った講演、事例発表、質疑応答、講師まとめまでを終わらせ、事例発表等の合間に周りの人と少し会話をする時間を設けながら行うと言っていたが、それはこの案1、2のどちらでもないということによろしいか。

○議長：そうである。

○委員：ここで言うワークショップは、本来の意味でのワークショップではなく、グループトークのようなディスカッションをするという認識。その程度にするのか、グループに分かれてしっかり討論し、結果を発表するのかということがあるが、会場や時間を考えると、基調講演を受けて少し事例報告をし、会場を移動せずにフリートークをするのが良いと思うが参加人数にもよると思う。1グループ10人位だろうか。

○委員：話を聞いてすぐに質疑応答だと、うまく意見が出ない人もいるのではないだろうか。隣の人と少し話をしてからならば、もう少し意見を出しやすくなり、参加している雰囲気が出るのではないか。ワークショップをするには、隣の声がかうさくて聞こえないなどで集中が続かないことが懸念されるので、部屋を分けて話し合うことが必要だと思う。そして部屋を分けるのであれば討論結果を発表する場が必要になると思う。そうすると時程的にどうなのか。講演についての質疑応答と、事例発表についての質疑応答が別で必要となると、かなり時間がかかることが予想される。

○議長：他に意見はあるか。

○委員：7月7日（木）の打ち合わせのときにも提案したが、基調講演自体無くても良いのではないか。基調講演があって、質疑応答があってという手順を取り払い、講師にはいくつかの事例を踏まえた上でのまとめ役をしてもらう方が良いのではないか。とにかく今は、時間配分よりも、この研修会で何をするのか、何を目的とするのかについての意見を出すべきである。地域活動の様々な活動の実態についてなど、純粹に社会教育的に捉えずに、生涯学習の視点で捉えて、教育委員会と市長部局の多岐にわたって、生涯学習の豊かな世界について各市から出してもらおうというのはいかがか。その地域活動がどのような人たちによってどのように行われ、どのように広がって、地域にどのようにどのような影響を及ぼしているのかまで話が出来れば、我々がやってきた循環型の地域学習社会の考え方とも合致すると思う。福祉や教育、スポーツなど、地域で生き生きと活動しているところを出してはいかがか。

○委員：良いと思う。多くの具体的な事例を聞けると、来た甲斐があると思えると思う。ただ、ばらばらに聞いてもよく分からないままになってしまうので、誰かまとめ役が必要だと思う。また、事例発表の後、周囲の人と話す時間を設けてもらおうと更に良いと思う。その後質疑応答という形が良いと思う。

○委員：この方法が比較的良いと思う。会場では市ごとに並ぶのではなく、他市との関わりが持てる配置にすることが必要だと思う。

- 議 長：基調講演は設けずに、具体的な事例発表とそれを受けてのディスカッションをメインにする形式がひとつ。他にはあるか。
- 委 員：ここ数年のブロック会議に参加していると思うのは、小学生の活動の事例が多いということ。この方法では、社会教育が広がっていかないと思う。私が思うに、西東京市には色々な活動をしている団体がたくさんあるので、テーマに沿うような団体も存在するはずであり、それを分かっているのは公民館なのではないのか。どのような事例が良いのかを公民館に聞いてみるのはいかがか。そうすれば、テーマに沿う市内の団体が見つかると思われる。西東京市の活動について、どういうものかをきちんと伝えられるようなものになれば良いと思う。
- 議 長：いくつか意見が出たが、基調講演形式は無しということで進めても良いか。事例発表をどのようにするかが今後の課題になると思う。
- 委 員：早いうちに事例発表ができるような団体を見つけることが必要であると思う。
- 議 長：他に意見はあるか。
- 委 員：事例が欲しいのか、（どうしたらうまくいったのかなどの）方法について聞きたいのかなど、社会教育に参加している人がどの部分を求めているのかによって違ってくるのではないか。
- 議 長：事例発表には、今自分たちが行っている活動についての発表もあるが、統一テーマが「皆で学び、活かし、周りに繋げていく」というものなので、テーマにそって、その団体がどのように発足し、学び、市民に繋げ、広がったのかというプロセスを内容にした発表をしてもらいたい。また、テーマに沿った事例を推薦等により探していく、ということによろしいか。
- 委 員：（異議なし）
- 委 員：実施方法はどうか。
- 議 長：「①テーマに沿った地域活動団体の事例発表②グループトーク  
③発表者との意見交換④まとめ」という形によろしいか。
- 委 員：当日に出てきた素材をまとめてもらいたいので良いと思う。
- 議 長：概要、講師は今後検討していく。
- 委 員：講師は公民館の人でも良いと思う。
- 議 長：形式としては、最後に助言者にまとめてもらう形にする。
- 事務局：「①テーマに沿った地域活動団体の事例発表②グループトーク  
③発表者との意見交換④まとめ」ということで決定する。

#### ブロック研修会テーマについて

- 議 長：統一テーマに沿った事例発表をしてもらうのに、西東京市内の事例だけで行うのか、他市からも事例を出してもらうのかについて、意見を聞きたい。
- 委 員：第4ブロックの研修会ということなので、西東京市内で良いと思う。
- 議 長：それでは西東京市内の事例ということに決定する。
- 委 員：他市からの発表が大変であれば、紹介程度に話をしてもらってはどうか。西東京市の発表をするにしても、5つの市に共通するものを選んだほうが良いと思う。そこからそれぞれの市ではどうしているのかを発言し合うことで、全市が参加して1つの方向へもって行けるのではないか。
- 議 長：グループトークの際に、司会等に各市からの発言を促してもらうという形で、

その部分はクリアできるのではないか。他市にとって準備するのがやはり大変に思われる。

○委員：少人数での話合いというのは、質疑応答のために近くにいる人と話すというものなのか、それともしっかりメモをとるなど、テーブルごとに討論するものなのかで、かかる時間も方法も変わってくると思う。他市も交えて行うのであれば、手元資料等の準備なども必要になりボリュームがあがると考えられるので、少し今までの話とは違うのではないか。どちらが良いとかではなく、何かに決めなければならないと思う。

○議長：基本的にワークショップは行わないので、最初から全体の中で発表してもらい、簡単なグループトークの後に、まとめるという形にする。

○委員：まとめ役には事例ごとにまとめてもらうようにすると良い。

○委員：もしそうするならば、テーブルごとに発表するのか。

○委員：発表ではなく、ディスカッションが目的である。研修会の目的が他市の社会教育委員の活動を知ることや親交を深めるというものであれば、こういう方法もあるという一例として挙げた。

○委員：1つの事例を聞いた後、周りの人と話をして、質疑応答が必要かどうか確かめるのはどうかと思っている。いなければそれで良い。まとまった話をするとまとまった話が出てきて、話がどんどん膨らんでいくと思われるので、まずは事例を聞き、そしてそれをどう取り組んだのかについて話すという流れが良いと思う。

○議長：全体的にどう進めるのかが出来上がれば、時程を組んでみての調整ができるとりあえず、西東京市内の事例だけにするのか、他市にも頼むのかについて決める。もし他市に頼むのであれば、7月19日（火）の理事会より前に承諾をもらわなければならない。これらを踏まえ、今回は西東京市内の事例のみにしたいと思うがよろしいか。

○委員：（西東京市内の事例のみで意見一致）

○議長：それでは西東京市内の事例で組むこととし、7月19日（火）の理事会ではそのように報告をする。次回の定例会で時程を考えたい。

○委員：（異議なし）

○委員：1つの事例ごとにディスカッションがあり、研修会全体の最後に講師にまとめてもらうという認識でよろしいか。

○議長：そうである。

○委員：各市の取り組み方の違いについて発言したければ全体の前で発表してもらおう。

○委員：分科会のようにしてしまうと、全体が見えなくなってしまうと考えられるので、始めから終わりまで全体で動くのが良いと思う。

○委員：事例発表というのは20分くらいで良いものなのか。

○委員：十分であると思う。

○委員：「20分話を聞いて、数分周りと話をしたうえで質疑応答」までを15分位で出来れば、「1つの事例につき35分位として3事例ほど採り上げる」として、開会の挨拶や休憩を含めても3時間位で丁度良くなるのではないか。

○委員：事例が3つだと聞く側が集中できなくなると思うので、2つで良いと思う。

○議長：それでは、1話完結方式をとって最終的に助言等をしてもらうということによろしいか。

- 委員：私は、事例を全て発表してからディスカッションをする方が良いと思う。参加した人にとって意味のあるものにしていないから、社会教育委員は何をやっているものなのかという人が出てくる。サポートする立場の人の話も聞ければ、社会教育委員としての役割についての理解が進むのではないかな。
- 議長：新しい提案ということでよろしいか。まとめると、1話完結形式と分科会形式の2つの案が出ていることになる。
- 委員：もし、今出た案が可能なのであれば、事例発表の時間の中で行ってもらおうということだと思われる。
- 委員：以前に参加した全国大会の分科会では、団体の活動を支えている側の人も登壇し、どのようにサポートしているのかについて積極的に話していた。それが良かったので提案した。
- 委員：それが可能であるかについては検討する必要がある。
- 議長：進め方や内容については、次回で間に合わないのであれば、後日有志で打ち合わせ会を開きたい。テーマと事例発表をメインにすることは決まったので、次に事例発表をどこに依頼するのかを決めたい。
- 委員：テーマはどのようになったのか。まだ決まっていないと思う。
- 議長：統一テーマの副題をそのまま用いるということ認識している。
- 議長：もし他に、文言を変える等意見があれば提案してほしい。
- 委員：「みんなが まなぶ いかす つながる」ということか。サブテーマはつかないのか。例えば、昨年度のような「地域に学び、地域に活かす」など。
- 委員：学び、繋ぎ、広がるを用いてはどうか。
- 委員：「市民が まなび つなぎ ひろげる」
- 委員：事例なので広がったでも良いのでは。
- 委員：「市民が まなび つなげ ひろがった」
- 議長：テーマは「市民が まなび つなぎ ひろがった」でよろしいか。
- 委員：広がるが良いと思う。
- 議長：では「市民が まなび つなげ ひろがる」ということにする。
- 事務局：「市民が まなび つなげ ひろがる」ということで報告する。
- 委員：市民はいるのか。
- 委員：無い方が良いと思う。
- 委員：「みんなが まなび つなげ ひろがる」が良いのでは。
- 議長：「みんなが まなび つなげ ひろがる」としてよろしいか。
- 委員：「みんなが まなび つなげ ひろがる」の後ろには何も無いのか。
- 委員：特に無くて良いと思う。
- 委員：後ろに付けられないのであれば、「みんなが」も付けずに、「まなび つなげ ひろがる」でもおもしろいのでは。
- 委員：誰が学ぶのかがあった方が良いと思う。
- 委員：「みんなが まなび つなげ ひろげる」の方が良いか。
- 委員：あまり抽象的だと統一テーマの様になってしまう。もう少し研修会の内容が分かるようなテーマが良いのでは。今日事例が決まるはずなので、その事例に沿ったテーマを決めるのはいかがか。
- 委員：防災となるとレスキューバードが考えられるが、昨年に発足した新しい団体ではなかったか。「ひろがった」と言えるのか。

- 委員：まだ広がったとは言えないと思う。
- 議長：2年前に発足し、その発足した人達が自分達でどのように学習し、それをどのように地域に広げていったのかという点では、今まさに、地域の中に学んだことをどう活かすのかについて勉強し、地域と共に広がっているところなので、良いと思う。
- 委員：その活動に関わっている方の年齢層はどうか。
- 委員：若い方から年配の方までいる。
- 委員：幅広い年齢層が関わっており良いと思う。
- 議長：講座から始まって作り上げていったところが良いと思う。
- 委員：防災ということで、聞いている人の関心も得やすく良いと思う。
- 議長：1つはレスキューバードに頼むということではいかがか。
- 委員：良いと思う。
- 議長：もう1つは、多文化共生についてとするのはどうか。
- 委員：子供たちへの日本語を教える活動、公民館の講座を支援する（講師紹介）という活動をしている。民間の日本語学習講座との連携もしている。
- 委員：どの市でも取り組まなければいけないテーマなので良いと思う。
- 委員：防災と多文化共生の2つの事例が良いのでは
- 委員：レスキューバードはまだ発足して1年余りの団体だが良いのか。組織等についてこれから整理していく必要がある団体では、このような講演を依頼するのは大変ではないか。
- 委員：日が空いていれば特に問題はなく引き受けてくれる団体だと思う。
- 議長：別のところで講演を依頼しているので、色々と話を伺ったが、とてもしっかりしていたと思う。年数が少ないから自分達で学んで広げつつあるところにきている。どう作り上げ、地域でどのような活動をしていて、どのような問題を抱えているかなど、そのあたりをリアルに話してもらえば良いのでは。
- 委員：今度公民館でも講演をするようだ。
- 委員：社会教育としての講演なのか。
- 委員：そうである。
- 委員：これからという団体に講演をしてもらうのも、参考になることが多くありそうなので良いのではないか。
- 委員：市民への還元が欲しいので、今回の研修会に合っているのでは。
- 委員：多くの人の関心を得られやすく良いと思う。
- 委員：社会参加したいと思っている人にとっても参加しやすいテーマである。
- 委員：早めに連絡を取って団体に確認を。
- 議長：ここまでをまとめる。事例については多文化共生と防災ということで、多文化共生をテーマとする団体とレスキューバードに依頼するという事でよろしいか。
- 議長：後からも良い案が出ているので、13日の10時から有志で打ち合わせ会を行い、そこで固めるということにしたい。ほとんどの方が参加出来そうなので、そうさせていただきます。

#### (4) 今後の活動について

- 議長：時間の都合により次回以降に検討したい。

(5) その他

- 事務局より資料3「西東京市社会教育委員の会議活動予定(平成28年4月～平成29年6月)」にもとづいて説明。

<主な質疑応答・意見>

○議長：質問等あるか。

○委員：(特になし)

○議長：次回会議は8月22日(月)午後3時からとしたい。以上で本日の社会教育委員の会議(7月定例会)は終了する。

※次回会議 平成28年8月22日(月)午後3時から